

Live Love Animals りぶ・らぶ・あにまるず ICAC KOBE 2015

ICAC KOBE 2015



～阪神・淡路大震災の経験を、人と動物の幸せな未来へ～

第4回 神戸 全ての生き物のケアを考える国際会議 2015

— 阪神・淡路大震災 20年記念大会 One World, One Life —

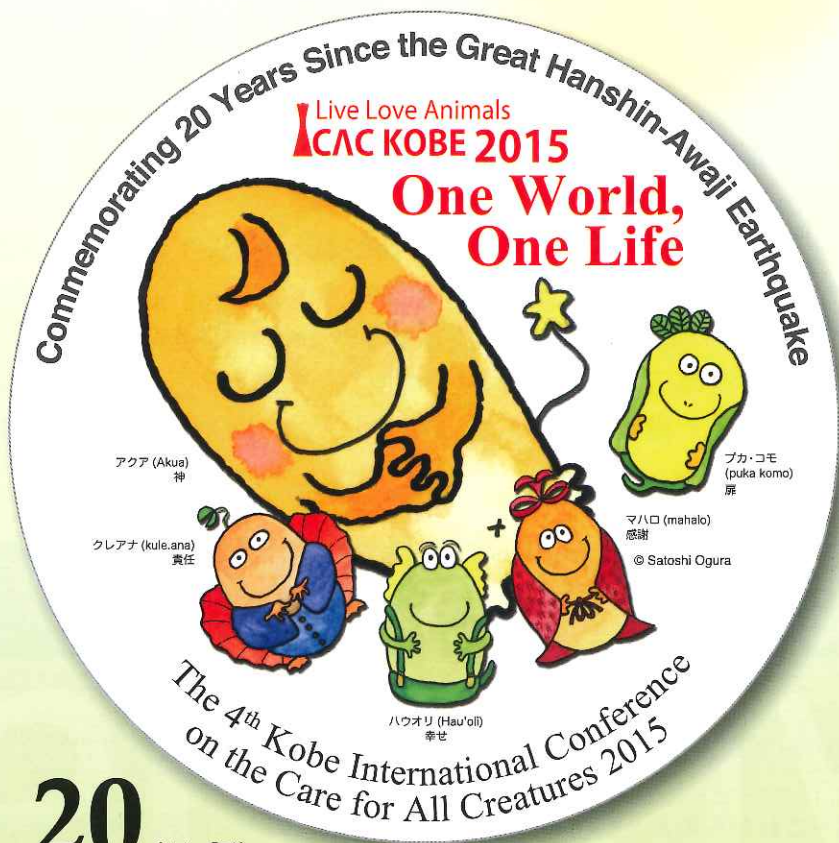
— Turning the Great Hanshin-Awaji Earthquake into Brighter Futures for People and Fellow Animals —
The 4th Kobe International Conference on the Care for All Creatures 2015

— Commemorating 20 Years Since the Great Hanshin-Awaji Earthquake — One World, One Life

阪神・淡路大震災の経験を 人と動物の幸せな未来へ

私たちは、あの震災から何を学んだのか。
そして、人間が果たすべき役割とは何か…。

入場
無料



開催日

2015年

7/19・20 (日) (月・祝)

開催場所 神戸大学統合研究拠点 (国際会議) / 神戸ポートピアホテル (レセプション)

主催 ICAC KOBE 阪神・淡路大震災20年記念大会実行委員会

実行委員会構成団体：神戸市 / 兵庫県動物愛護センター / 公立大学法人 大阪府立大学 獣医学類 / 公益社団法人 日本動物病院協会 / 公益社団法人 日本動物福祉協会 / 公益社団法人 Knots (事務局)

共催 公益社団法人 日本医師会 / 近畿地区連合獣医師会 / 神戸市動物愛護協会

特別協賛



日本ヒルズ・コルゲート株式会社

シンポジウム支援企業 ロイヤルカナンジャパン

会議支援企業

アサヒグループホールディングス株式会社 / 六甲山カンツリーハウス / DSファーマアニマルヘルス株式会社 / ペットライン株式会社

阪神・淡路大震災から20年…

私たちが向き合うべきことは何か



目的

この会議は、阪神・淡路大震災15周年を契機に、全ての動物を対象とし、そのより良いケアや生息環境の保全を目指すための情報交換・新技術の創出等を議論することにより、人を含む世界中の動物の福祉を向上させ、以って、我々人間が果たしうる責任を広く社会に示し、幸福な人と動物との共生を更に前進させることを目的とする。

開催趣旨

— One World, One Life —

「お互いの存在に『感謝』し、生ある限りは『幸せ』に暮らすこと。それが、いのちに対する『責任』である」

阪神・淡路大震災から20年が経ちます。大きな災害は、ごく普通の日常が、どんなに脆く、大切に、守らねばならないものかを教えてくれました。それは、どんな生き物にとっても同じでした。また、生き物の暮らしを襲う危機は、大きな災害だけではなく、老いや疾病、事故や戦争、貧困と、様々な要因で私達を襲います。それに対し、社会は、高度な専門性を以て、対処してきました。

世界はグローバル化し、地球は小さくなりました。私達は、今や世界との繋がり無しに、自分達の生活を考えることは出来ません。そして今、様々な課題解決の為に、分野を越えた連携も広く求められています。

生きとし生けるものが、この地球上で幸せに暮らせる社会にしていく為、様々な専門分野の連携のもと、私達人間に出来ることを幅広く議論する場を提供し、「ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく」— One World, One Life — 概念構築の第一歩と致します。

第4回 神戸 すべての生き物のケアを考える国際会議 2015 —ICAC KOBE 2015

【プログラム】(同時通訳付き)

19日(日) 10:00～13:30	《会場：コンベンションホール》 ■開会式 ■基調シンポジウム 「阪神・淡路大震災の経験を人と動物の幸せな未来へ— 護るべき大切な日常とは？」(別紙参照)	
19日(日) 14:30～17:30	■シンポジウムI《会場：コンベンションホール》 「同行避難～これからの人と動物の緊急災害時」 ●主催：実行委員会 ●座長：笹井和美氏(公立大学法人 大阪府立大学 獣医学類 学類長 教授) ●演者： 1. 「阪神大震災時の状況を踏まえた今後の取り組み」 杉原未規夫氏(兵庫県動物愛護センター淡路支所) 2. 「静岡県災害時における愛玩動物対策行動指針」について 寺井克哉氏(静岡県健康福祉部 生活衛生局 衛生課 動物愛護班) 3. 「中越大地震時における同行避難動物への対応—避難所及び仮設住宅における受け入れについて」 遠山潤氏(新潟県動物愛護センター) 4. 「同行避難の必要性と実現に向かったの準備」 山口千津子氏(公益社団法人 日本動物福祉協会)	緊急災害時に際しては、家族の一員である動物との同行避難を原則とすることが、国(環境省)から打ち出されました。人と動物が共に暮らす社会で、家族の一員である動物の同行避難は不安ばかりの中に人と動物の双方の安心を提供するだけでなく、拒否すれば人の避難をも難しくし、残された動物による公衆衛生上の問題等様々な問題も引き起こします。過去の対応例を踏まえつつ、今後起こりうる緊急災害時における避難のあり方について考えます。
19日(日) 14:30～17:30	■オーラルセッション1《会場：セミナー室》 「食の安全/人獣共通感染症」 ●運営協力：公益社団法人 日本獣医学会	■オーラルセッション2《会場：ラウンジ》 「One Plan Approach～野生動物と共存していくための包括的な取り組み」 ●運営協力：日本野生動物医学会
19日(日) 18:30～20:30	■レセプション《会場：神戸ポートピアホテル》	

<p>20日(月・祝) 10:00～13:00</p>	<p>■シンポジウム2《会場：コンベンションホール》 「最近問題となった人と動物の共通感染症」</p> <p>●主催：人と動物の共通感染症研究会 ●座長：吉田博氏（姫野病院 名誉院長）</p> <p>●演者： 1. 「エボラ出血熱—リベリアにおける支援活動から学んだこと—」 加藤康幸氏（国立国際医療研究センター 国際感染症センター 国際感染症対策室医長） 2. 「70年ぶりの再興—デング熱国内流行とその対策—」 高崎智彦氏（国立感染症研究所 ウイルス第一部 第2室長） 3. 「動物を守り、自分を守る；ダニ媒介感染症 SFTS の最新の研究から」 前田健氏（山口大学共同獣医学部 教授） 4. 「最近問題となった動物由来感染症に対する厚生労働省の取組みについて」 宮川昭二氏（厚生労働省 結核感染症課 感染症情報管理室長）</p>	<p>近年、感染症は世界的規模で再び出現しつつあるが、最近 30～40 年間の間に新しく出現した新興感染症や一旦制圧された感染症が再び出現した再興感染症が主な感染症である。本シンポジウムでは、最近問題となった人と動物の共通感染症のなかで、エボラ出血熱、デング熱、重症熱性血小板減少症候群と動物由来感染症に対する厚生労働省の取り組みについて紹介する。</p>
<p>20日(月・祝) 10:00～13:00</p>	<p>■シンポジウム3《会場：ラウンジ》 「災害に強い日本型畜産の構築のために」</p> <p>●主催：実行委員会 ●座長：大山憲二氏（神戸大学大学院 農学研究科附属 食資源教育研究センター 教授）</p> <p>●演者： 1. 「災害発生時の家畜の取扱について」 犬飼史郎氏（独立行政法人 家畜改良センター 改良部長） 2. 「独立行政法人 家畜改良センターにおける外部支援について」 吉奥努氏（独立行政法人 家畜改良センター 熊本牧場長） 3. 「東日本大震災における配合飼料の供給について」 長谷川敦氏（協同組合日本飼料工業会 参事） 4. 「災害時における地域内での協力体制について」 本田義貴氏（兵庫県農政環境部 農林水産局畜産課 衛生飼料班長）</p>	<p>日本の畜産業は、自然災害に見舞われた際「家畜を助けてあげて欲しい」という声を耳にしてきました。家畜は、私たちの生活に役立てるために生産されます。災害対応の際にはこのような家畜の本来の役割も踏まえた対応が必要です。しかし、被災した家畜の避難は様々な理由から容易ではありません。このため、自然災害のリスクを予め認識し、災害に直面しても家畜への影響が最小限となるよう平常から心がけることが重要です。このセッションでは、日本の畜産の状況も踏まえた対応の方向性を議論します。</p>
<p>20日(月・祝) 14:00～17:00</p>	<p>■オーラルセッション3《会場：セミナー室》 「教育／子ども達とつながり」</p> <p>●運営：実行委員会</p>	
<p>20日(月・祝) 14:00～17:00</p>	<p>■シンポジウム4《会場：コンベンションホール》 「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム—伴侶（家庭）動物との暮らしを地域活性へ」</p> <p>●主催：公益社団法人日本動物病院協会／公益社団法人 Knots ●座長：細井戸大成氏（公益社団法人日本動物病院協会 会長） ●モデレーター：富永佳与子氏（公益社団法人 Knots 理事長）</p> <p>●演者： 1. 「我が国の高齢化の状況と介護保険制度の基本的方向」 懸上忠寿氏（厚生労働省関東信越厚生局 健康福祉部健康福祉課長） 2. 「地域の活性化と動物病院の役割」 細井戸大成氏（公益社団法人 日本動物病院協会） 3. 「高齢ペット飼育者の意識調査」 西澤亮治氏（特定非営利活動法人動物愛護社会化推進協会 事務局長） 4. 「超保険」を通じた人とペットの幸せな未来の実現に向けて 上杉克氏（東京海上日動火災保険株式会社） 5. 「コーディネーターとしての地方自治体の役割」 演者未定（神戸市） 6. 「ケアする社会へ—見守りから始まるコミュニティづくり—」 松原一郎氏（関西大学 社会学部 教授）</p>	<p>「伴侶動物との暮らし」を地域に積極的に取り入れる「高齢者、子ども達、伴侶動物が楽しく一緒に暮らせる心豊かで温かな地域社会」が、大きな課題となっている高齢・単身社会に向けて、幸せな社会形態構築に繋がるひとつの解となる可能性が見えて来た。そこには、新たな事業・雇用創出の可能性もある。それを支える伴侶動物飼育支援社会システムモデルを考察する。</p> <p>サポート企業： ロイヤルカナンジャパン</p>
<p>20日(月・祝) 14:00～17:00</p>	<p>■シンポジウム5《会場：ラウンジ》 「日本の災害獣医療の今後を考える」</p> <p>●主催：災害動物医療研究会 ●座長：佐伯潤氏（くずのは動物病院 院長／災害動物医療研究会 幹事／公益社団法人大阪府獣医師会 理事）</p> <p>●演者： 1. 「アメリカにおける災害獣医療について」 ジョン・マディガン氏（カリフォルニア大学デービス校 教授） 2. 「日本の災害獣医療の方向性」 田中亚紀氏（カリフォルニア大学デービス校）</p>	<p>阪神淡路大震災から 20 年、ハリケーンカトリーナから 10 年となり、どちらも都市が巻き込まれた大規模自然災害で、多くの人々が被災し、同時に被災動物も注目された災害でした。米国の災害獣医療の第一線で活躍されている Dr. Madigan にご講演いただき、田中亚紀先生からは、日米の状況を踏まえ、日本における災害獣医療の必要性についてご講演いただきます。今後の災害に備え、日本の災害獣医療の方向性を示せるようなシンポジウムにしたいと思います</p>
<p>20日(月・祝) 14:00～17:00</p>	<p>■オーラルセッション4《会場：セミナー室》 「その他」</p> <p>●運営：実行委員会</p>	
<p>20日(月・祝) 17:00～17:30</p>	<p>《会場：コンベンションホール》 ■閉会式 ■ポスターセッション優秀者発表</p>	

シンポジウム
主催団体

人と動物の共通感染症研究会／災害動物医療研究会／公益社団法人 日本動物病院協会／公益社団法人 Knots

セッション
運営支援団体

【オーラルセッション】公益社団法人 日本獣医学会／日本野生動物医学会
【ポスターセッション】公立大学法人 大阪府立大学 獣医学類

特別協力

一般社団法人ペットフード協会／公益財団法人日本モンキーセンター／神戸大学大学院農学研究科／長崎大学熱帯医学研究所／北海道大学大学院獣医学研究科／帯広畜産大学獣医学課程／岩手大学農学部共同獣医学科／東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻／東京農工大学農学部共同獣医学科／岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科／鳥取大学農学部共同獣医学科／山口大学共同獣医学部獣医学科／宮崎大学農学部獣医学科／鹿児島大学農学部共同獣医学部獣医学科／酪農学園大学獣医学群／北里大学獣医学部獣医学科／日本大学生物資源科学部獣医学科／麻布大学獣医学部／日本獣医生命科学大学獣医学部／関西学院大学災害復興制度研究所／同志社大学 良心学研究センター・生命倫理ガバナンス研究センター

協力

日本寄生虫学会／日本衛生動物学会／日本熱帯医学会／国際医療リスクマネジメント学会／日本予防医学リスクマネジメント学会／応用動物行動学会／ヒトと動物の関係学会／兵庫県立人と自然の博物館／兵庫県立コウノトリの郷公園／兵庫県森林動物研究センター／奈良県うだ・アニマルパーク振興室／公益社団法人 日本動物園水族館協会／日本クマネットワーク／ニホンジカ有効活用研究会／一般社団法人 エゾシカ協会／一般社団法人 日本 SPF 豚協会／一般社団法人 ちよだニャンとなる会／公益財団法人 日本盲導犬協会／社会福祉法人 日本介助犬協会／特定非営利活動法人 兵庫介助犬協会／社会福祉法人 兵庫盲導犬協会／社会福祉法人 日本聴導犬協会／特定非営利活動法人 聴導犬普及協会／特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会／一般社団法人 日本障害者乗馬協会／動物との共生を考える連絡会／アニマテック・オオシマ／一般社団法人 優良家庭犬普及協会／一般社団法人 日本ペット用品工業会／日本動物病院会／一般社団法人 日本動物看護職協会／ペットとの共生推進協議会／一般社団法人 ジャパンケネルクラブ／一般財団法人 全国緊急災害時動物救援本部／日本獣医学生協会 (JAVS)

後援

農林水産省／環境省／厚生労働省／文部科学省／兵庫県／兵庫県教育委員会／神戸市教育委員会／公益社団法人 日本獣医師会／一般社団法人 兵庫県医師会／一般社団法人 兵庫県獣医師会／公益社団法人 神戸市獣医師会／一般社団法人 神戸市医師会／一般財団法人 J-HANBS／公益財団法人 日本動物愛護協会／公益社団法人 日本愛玩動物協会

会議に関する
お問合せ

ICAC KOBE (アイカック神戸) 事務局
公益社団法人 Knots 内

〒658-0047

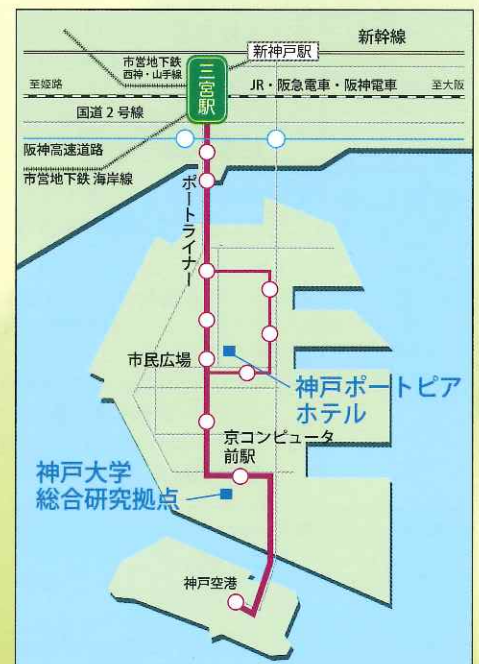
兵庫県神戸市東灘区御影3丁目2番11-20

Tel: 078-843-8970 Fax: 050-3730-0738

E-mail: icackobe@knots.or.jp http://knots.or.jp/

会場案内

- ・神戸大学総合研究拠点 ※「京コンピュータ前駅」すぐ
〒650-0047 神戸市中央区港島南町7丁目1番48
<http://www.kobe-u.ac.jp/kuirc/>
- ・神戸ポートピアホテル ※「市民広場」駅前すぐ
〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10-1
<http://www.portopia.co.jp/>



ICAC KOBE 2015 公式ウェブサイト

http://knots.or.jp/corporation/2014/10/icac-kobe2015_outline/

基調 シンポ ジウム

Live Love Animals リぶ・らぶ・あにまるず ICAC KOBE 2015 ICAC KOBE 2015

2015年
7月19日(日) 10:00 ~ 13:30
《会場: コンベンションホール》



「阪神・淡路大震災の経験を人と動物の幸せな未来へ — 護るべき大切な日常とは?」

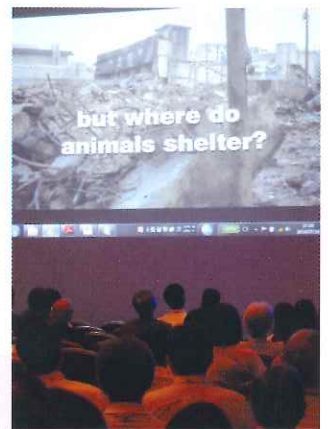
阪神・淡路大震災から20年が過ぎた。私たちが震災から学んだもの、それは、「日常」の大切さである。しかし、現在の社会の「日常」は、高齢化・単身化・少子化・グローバル化等により、これまでにない様々な課題を抱えている。IT等の技術の進歩により、情報や人のつながりの多様化・効率化・高速化が進むようになったものの、そのことが逆に孤独や社会的疎外感を導き、また社会からうける過度のストレスに悩む人は増えるばかり。「ヒトは動物であり、自然の一部である」という「人

の本来の姿を模索し、それに似合った日常の過ごし方を目指す時が来ていることを、誰もが漠然と感じているのではないだろうか。私たちが守ろうとしている自然の中の「幸せな日常」とはどのようなものであるべきか。震災から20年の月日を重ねた今だからこそ、もう一度「生き物としてのヒト」という出発点に立ち返って考察を進め、ヒトを含む動物の幸せな未来へ向けての礎を再構築出来たらと願う。それが、阪神・淡路大震災20年への私たちの貢献であり、希望である。

● 座長: **位田 隆一氏** (京都大学 名誉教授/同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 特別客員教授/同志社大学生命倫理ガバナンス研究センター長/公益財団法人 国際高等研究所 副所長)

● 演者:

1. 「ヒト・動物・自然の新たな公共性の模索 —文化比較の視点から」
小原 克博氏 (同志社大学 神学部 教授/良心学研究センター センター長)
2. 「家族愛の脳科学」
篠原 一之氏 (長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科神経機能学 教授/医学博士)
3. 「常に変化し続ける生命の柔軟な営みに学ぶ」
森本 素子氏 (宮城大学 食産業学部 教授/獣医師)



▲ 第3回大会基調講演の様子

過去の基調講演の様子

各年度の大会において、最も関心事の高いテーマをオープニングの基調講演としてご講演頂いています。第4回大会では基調シンポジウムとして開催されます。



第1回 (2009)

▲ **市田 成勝氏** (大震災動物救護メモリアル協議会会長)
「阪神・淡路大震災における動物救護について」



第2回 (2012)

▲ **片峰 茂氏** (長崎大学 学長)
「感染症はいかに制御できるのか」



第3回 (2014)

▲ **喜田 宏氏** (北海道大学 特別教授)
「インフルエンザウイルスの生態: 鳥インフルエンザとパンデミックインフルエンザ対策のために」

会議アドバイザー

ICAC KOBE 2015 は、ヒト医療・理学系・文系の有識者の皆様のアドバイスを頂きながら、プログラムの内容を構築しています。

- ・ 竹内 勤氏 (慶應義塾大学 名誉教授/慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 客員上席研究員)
- ・ 松沢 哲郎氏 (京都大学 霊長類研究所 教授/公益財団法人 日本モンキーセンター 所長)
- ・ 奥野 卓司氏 (関西学院大学 総合図書館長・社会学部 教授/放送大学大学院客員教授/山階鳥類研究所 特任研究員)

分科 シンポジウム



アクア (神)
Akua (God)

神の

人も動物も幸せに共生できる社会の実現をテーマとしたシンポジウムが開催されています。第4回大会では、分科シンポジウムとして以下の5つのシンポジウムが開催されます。

- シンポジウム1《会場：コンベンションホール》
「同行避難～これからの人と動物の緊急災害時」
- シンポジウム2《会場：コンベンションホール》
「最近問題となった人と動物の共通感染症」
- シンポジウム3《会場：ラウンジ》
「災害に強い日本型畜産の構築のために」
- シンポジウム4《会場：コンベンションホール》
「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム
—伴侶（家庭）動物との暮らしを地域活性へ」
- シンポジウム5《会場：ラウンジ》
「日本の災害獣医療の今後を考える」



▲シンポジウムⅢで講演をするフィル・アーコー氏（第3回）

扉



プカ・コモ (扉)
puka komo (Door)

オーラル セッション



マハロ (感謝)
mahalo (Appreciation)

ICAC KOBE 2015 では、オーラルセッションの参加者を募集し、「食の安全／人獣共通感染症」「One Plan Approach ～野生動物と共存していくための包括的な取り組み」「教育／子ども達との関わり」「その他」の4つのセッションを実施します。国内外から多くの参加者があり、幅広いフィールドで、情報共有・情報発信を行います。

【オーラルセッション参加者（調整中）】《会場：ラウンジ&セミナー室》

- **Saharuetai Jeamsripong** (University of California-Davis)
“Field-Validation of Minimum Application Intervals for Use of Raw Animal Manure as a Soil Amendment in the Central Valley, California”
- **Anyarat Thiptara** (Population Health and Reproduction, School of Veterinary Medicine, University of California Davis)
“Linkages between Pathogens and Cattle Fecal Loads and Microbial Water Quality in Aquatic Ecosystem in Sierra Nevada Meadows of California”
- **Philip Tedeschi / Miyako Kinoshita** (Denver University / Education Program Manager, Green Chimneys Farm and wildlife Center Sam and Myra Ross Institute at Green Chimneys)
“Risk and Resilience Positive Youth Development”
- **Pei F. Su** (ACTAsia)
“Caring for Life : Humane Education in China”
- **Priyakamon Khan** (Eastern Asia University)
“Risk of Rabies Exposure among the Foreign Backpackers and its impact on Tourism Industry in Thailand”
- **MD. GOLAM ABBAS** (Department of Molecular Neuroscience and Integrative Physiology, Kanazawa University, Kanazawa, Japan and Infectious Diseases Hospital, Dhaka, Bangladesh)
“Significance of rabies education program among the elementary school children of Bangladesh”
- **NAILA AL MAHMUDA** (Research Center for Child Mental Development, Kanazawa University)
“Impact of stray dogs on Bangladesh economy”
- **江崎 保男氏** (兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科/県立コウノトリの郷公園)
「コウノトリ野生復帰にみる人と自然の共生」
- **佐藤 哲也氏** (神戸どうぶつ王国園長/公益社団法人日本動物園水族館協会生物多様性委員会副委員長)
「ツシマヤマメネコの生息域外保全事業」
- **藤井 啓氏** (プロジェクトとっかり)
「知っていますか？ ゼニガタアザラシと漁業をめぐる問題」
- **松村 かの氏** (奈良県うだ・アニマルパーク振興室)
「奈良県うだ・アニマルパークの「いのちの教育」—小学生プログラムの評価—」
- **中塚 圭子氏** (人とペットの共生環境研究所)
「日本人の琴線に触れる犬伝説—弘法大師を高野山へ導いた白と黒」

神戸!



ハウオリ (幸せ)
Hau'oli (Happiness)

「アクア (神)」と「プカコモ (扉)」、ハワイ語で二人で「神の扉 (神戸)」という意味です。私達はアニマルケアのキーワードを表現しています。生き物本来の在り方、「ハウオリ (幸せ)」、お互いの存在への「マハロ (感謝)」、そしてこの会議のテーマ「クレアナ (責任)」です。

ポスター セッション

第3回からは、国内外の大学院生による人と動物との関わりをテーマにしたポスターセッションが開催され、多くの来場者の関心を集めました。第4回も意欲的な取組みがなされています。



《Hill's スチューデント・サポートプログラム》で、大学院生への交通費支援があります。



クレアナ (責任)
kule.ana (Responsibility)



▲多くの来場者の関心を集めたポスターセッションのエリア



皆様へ

ICAC KOBE 2015 事務局

第4回神戸すべての生き物のケアを考える国際会議 2015 ICAC KOBE 2015 ご登録とご支援のお願い

本会議のパンフレットをご覧下さり、本当に有難うございます。

この会議は、阪神・淡路大震災 15年に際し、震災を経験した神戸から、「いのち」に対する人間の責任に付いて、考えていこうと設置されました。今年は震災から20年の節目を迎え、大変多くの皆様のご尽力により第4回大会の開催が実現されることとなり、素晴らしいプログラムをご用意することが出来ました。

本会議が真に意義あるものとして活用され、力を発揮していく為には、皆様方、おひとりおひとりのご参加が、大きな鍵となります。本会議は入場無料ではございますが、下記、ウェブサイトからのご登録が必要です。登録が早期に増えますと、それだけ会議を盛り上げることが出来ます。何卒、早期のご登録を賜り、会議活性化にご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

ご登録アドレス <http://knots.or.jp/corporation/2012/12/regi2015/>

また、本会議では、個人の方の**会議サポーター**、法人の**会議支援企業および団体**を広く募集しております。特に、法人の皆様におかれましては、ご支援を頂きますと、ウェブサイトや印刷物にお名前を掲載させていただきます。こちらにお名前を頂くことにより、市民、行政、大学、団体、産業体が開催意義に賛同し、力を合わせての開催となることをお示しすることとなります。多くの法人の皆様にご趣旨へのご理解を頂き、こちらにも、ご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

【会議サポーター】 任意の個人寄付（随時受け付け）：一口1万円

※公益社団法人 Knots は税額控除対象法人です。

【会議支援企業および団体】 会議全体を支援：一口10万円

※開催前にご入金をお願い致します。

A. 10口（100万円）以上のご支援の場合

・ウェブページ、印刷物へのご支援名義掲載／レセプションパーティー2名様ご招待

B. 上記以外

・ウェブページへのご支援名義掲載／レセプションパーティー1名様ご招待